

第23期 国立市社会教育委員の会（第23回定例会）会議要旨

令和3年3月23日（火）

[参加者] 倉持、丹間、苫米地、石居、富田、佐々木、根岸、江角、砂押、笹生

[事務局] 雨宮、土方、長谷川

倉持議長 それでは、皆さんおそろいになりましたので、第23期国立市社会教育委員の会第23回定例会を始めたいと思います。本日もよろしくお願いいたします。

本日は、「適切な事業評価方法の検討」についての意見書の最終案を取りまとめていく作業をしていきます。で、今期の最後となります次回で、意見書の確定という形で進めていきたいと思います。

初めに、事務局より配付資料の確認をお願いします。

事務局 事務局でございます。本日もよろしくお願いいたします。

配付資料の確認をさせていただきます。まず左側の山ですが、次第が1枚載っておりまして、その下、資料1-1としまして、「適切な事業評価方法の検討」について（意見）の鑑が1枚ございます。その下に資料1-2-1、こちらは前回の会議以降の修正箇所等を記載したものでございます。中身については後ほど御説明いたします。資料1-2-2、こちらは先ほどの資料1-2-1の内容を全て反映させた、最終的に仕上がってくる意見書（案）となっております。それから、本日要望書が出ておりますので、資料2としてお配りしてございます。

ほか、毎回、図書館とか公民館のたよりをお配りしておりますが、前回の臨時会でお渡ししていただきますので、今回は配付物はございません。

それから議事録でございます。前回の第1回臨時会の議事録につきましては、現在作成中でございます。机上にはその前の第22回定例会の議事録を置かせていただいております。こちらの内容に修正等がなければ、数日中に市のホームページに掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。

配付資料につきましては以上でございます。

倉持議長 ありがとうございます。

それでは、本日は資料2として要望書が出ておりますので、こちらについて事務局から説明を先にお願いたします。

事務局 事務局でございます。資料2を御覧ください。

2021年3月15日付で要望書が出ておりますので、御紹介いたします。

タイトルが「適切な事業評価方法の検討（議長案）」に関する要望」となっております。項目のみ、ここで簡単に御紹介させていただきます。

1. 「できなかった宿題」を他の人に押しつけないでください。

2. 次期社会教育委員の会が生涯学習の「評価」に関わるべきという意見は出さないでください。

裏面にまいります。3. 立場の違いを無視して、「双方向」を都合よく持ち込まないでください。

4. 生涯学習計画の「進捗状況調査」や「市教委の「点検・評価報告書」を市民に周知する必要はありません。

となっております。

要望書の概要については以上でございます。

倉持議長 はい、ありがとうございました。

それでは、少し要望書に目を通していただく時間を取りたいと思います。

(確認中)

倉持議長 資料2、要望書について、何か御質問や御意見等ございますでしょうか。それでは議事に入りたいと思います。

前回の臨時会では、意見書案について取りまとめるための審議を行いました。本日は、臨時会で審議いただいた委員の皆様の御意見を踏まえ、議長、副議長で協議しました意見書最終案を基に、審議を進めていきたいと思います。

まず事務局から、資料1について説明をお願いします。

事務局 事務局です。資料でございますが、先ほど申し上げたとおり、資料1-1と資料1-2-1、資料1-2-2の3つに分かれてございます。こちらは事前に配付させていただいておりますが、資料1-2-1につきましては、印刷画面と閲覧画面で若干見え方が違ったものになっているかもしれませんが、事前に配付したものと同一内容となっております。

まず資料1-1を御覧ください。最終的に教育長に提出する意見書のかがみとなっております。こちらは、前回、前々回とお出ししているものから変更はございません。

続きまして資料1-2-1を御覧ください。こちらは、先ほど御説明がありましたとおり、前回、第1回臨時会で御審議いただいた内容を確認する資料に、その後の議長、副議長の御意見が載っているものでございます。

資料1-2-2につきましては、資料1-2-1の内容を反映するとこのようになるという資料でございます。本日は、資料1-2-1と資料1-2-2をベースに御審議いただければと思います。

早速ではございますが、資料1-2-1のほうを御説明いたします。こちらのカラールりのものでございます。こちらは、前回の臨時会で合意が取れた事項と、それ以降、議長、副議長で協議した内容の2つが合わさっているものでございます。

まず先に、前回の臨時会で確認した事項について、確認していきたいと思えます。1ページを御覧ください。

項目1の(2)評価の構造についてのところです。1つ目のポツの文章につきまして、「積み重ね」「積み重ね」と続くので、後半の部分は削除したほうがいいのではないかとということで、「積み重ねの先に中間評価があり、その積み重ねの先に、最終評価がある」となっていたのを、「積み重ねの先に中間評価、最終評価がある」という形に修正してございます。

おめくりください。2ページ目でございます。(2)評価の構造についての、最後のポツでございます。こちらは、言い回しを整理したほうがよろしいのではないかと御意見があったところですが、「情報発信してほしい」となっていたところを「情報発信すること」と修正してございます。

続きまして、(3)単年度評価について、箇条書になっている項目の1つ目、臨時会の資料では「評価内容に「目標」を明示する」となっていましたが、もう少し具体的な内容を記したほうがいいのではないかとということで、「評価内容に「今年度の目標」を明示する」という形に修正してございます。

続きまして、3つ目のポツでございます。こちらも表現の修正でございます。元の文章は「項目の記載にあたっては、実施回数や参加者数などの定量的な実績だけでなく、定性的な評価、すなわち担当課としての振り返りや職員によ

る観察、市民との対話、市民・利用者からの声などの記述をさらに充実する」となっておりますが、幾つか削除がございまして、「項目の記載にあたっては、実施回数や参加者数などの実績だけではなく、担当課としての振り返りや職員による観察、市民との対話、市民・利用者からの声などの記述をさらに充実させる」という形に修正してございます。

次のポツ、元の文章では、中ほどのカギ括弧の後に(だけ)という形で、これを入れるか、入れないかという議論がございまして、一旦外して議論してみようということでしたので、「だけ」についていた括弧を外しております。

前回の臨時会で修正を確認した点は以上です。

そのほかに、前回から今回にかけて議長、副議長で協議いただいた内容がございまして、こちら一通り説明します。

1 ページ目にお戻りください。1 番の適切な事業評価の考え方についての(1)事業評価のあり方についてというところで、コメントが幾つかございます。

こちらは単純な直しということで……。

倉持議長 あ、コメントのところはこちらでやるので。

事務局 よろしいですか。じゃあ、事務局からは以上でございます。

倉持議長 ありがとうございます。

事務局から途中まで説明がありましたけれど、それぞれの部分が、丹間副議長と私とでやり取りした部分そのまま入っていますけれども、最終形態はまたちょっと違ったりするので、よく見たら、最終的に直したのが直っていないところもあるので、今日は資料1-2-2のほうを皆さんと確認しながら、前回いろいろ御意見いただいたところを踏まえて、副議長と協議して御提案する部分というのを、紹介させていただきたいと思います。

まず1ページ目、1の(1)の2つ目のポツなんですけれども、これは修正が反映されてないんですけれども、「市民や利用者」と「市民・利用者」の両方の表記が出てくるので、「市民・利用者」というふうに全て統一したらいいんじゃないかという御意見を副議長からいただいていますので、そのように修正したいと思います。すみません。資料1-2-2が最終版と言いながら、ここは直ってないんですけれども、ここを直すということでお願いします。

それで、この文章の後半なんですけれども、前回の会議でPDCAサイクルというか評価全体の枠組み、計画と実行、それをチェック、評価し、そしてまた次の計画に生かしていくという大きな流れが、前半のほうに出ている方がいいんじゃないかというお話がありました。

それをPDCAサイクルとして書くかどうかというのは大分考えたんですけれども、中身として途中まで書いてあったり、何度も出てきたりするような部分があったので、この2つ目のポツの後半に文章を足すことによって、その意図を伝えようと思ひまして、このように修正しています。

「事業評価の目的は、国立市生涯学習振興・推進計画が掲げる3つの基本方針にもとづいて、市民・利用者からの反応をふまえ、社会教育・生涯学習の場や機会の整備・情報発信が適切に行われたかを確認することにある」というのが前回までだったんですけど、「確認し、それを踏まえて事業を改善することにある」というふうに足しました。「このサイクルの積み重ねは、次期計画の立案の資源になる」ということで、計画、評価のサイクルを回すという意図を、文章として表現したつもりですが、この部分、何かありましたら後ほど御意見いただければと思います。

それから、次の大きな修正点は、次のポツ、3つ目です。「生涯学習・社会教育の主役は学習者であることから、次に示す事項のように、市民・利用者を中心に考える観点から事業を吟味・評価することが重要である」、これが前は1つの文章の中につながっていたんですけども、 、 、 というふうにせつかく段階分けしているの、それぞれ改行したほうが見やすいんじゃないかという意見交換をしまして、表記をこのようにしてみました。

さらに、ここを困ったらいんじゃないかみたいなやり取りもしたんですけども、今までそういうふうにしたことがなく、ここだけ目立っちゃうかなと私自身は思ったので、副議長の御提案はここはなしで、改行するぐらいでいいかなと思ったんですけど、この辺りも御意見がありましたらお願いします。

また、元は「それ」とか「その」と指示語が多かったんですけども、文章を整えて、しつこいようですが、市民・利用者のニーズや声をどのように把握するか、市民・利用者のニーズや声はどのようなものか、市民・利用者に対して何をどのように行ったのか。の「それ」はちょっと違うかもしれない。「それ」は市民・利用者に対して何をどのように行ったのかということ？市民・利用者のニーズや声に対してですかね。指示語は難しいですね。さらに修正ですね。は、「市民・利用者に対して」ではなくて、「市民・利用者のニーズや声に対して何をどのように行ったのか」という修正案です。

それから、次のポツ、四つ目です。文章の最後のところ、「次期計画づくりにも役立てる」と書いてあるんですけど、この「も」は取ってください。「次期計画づくりに役立てる」と。「も」だと、おまけみたいな感じですので、取ったらいいんじゃないかという意見をいただいて、そうしたつもりだったんですけど「も」が入っているので、これは取ってください。

取りあえず、1の(1)の部分、ポツの2つ目、3つ目、4つ目に少し修正案を考えてきましたが、この部分についていかがでしょうか。御意見、あるいは再修正とかありましたら、よろしく願いいたします。

富田委員、お願いします。

富田委員 漢字の統一ですが、2つ目のポツの3行目の後ろのほう、「それを踏まえて」は、平仮名で統一ですね。

倉持議長 「踏まえて」は、そうですね。その前の文章で「ふまえ」ですね。じゃあ、漢字でなく、「ふまえて」にしてください。ありがとうございます。

富田委員 それから3つ目のポツで、「生涯学習・社会教育の主役は学習者である」の主役という言葉でいいのかなというのをずっと考えているんですが、いかがでしょうか。役というのがどういうニュアンスなのか。学習する主体は市民であるという意味なのかというので、この言葉のかなというのをずっと考えているんですが、いかがでしょうか。

倉持議長 例えば、「主役」を「主体」にしたほうがいいのかという御意見ですか。

富田委員 「主体」というと、非常に強いというか、またそこに説明が必要な気がするの、で、「主役」ぐらいでよいのか。

倉持議長 もう一度確認しようということですね。

富田委員 はい。皆さんが、もしよいアイデアがあったらということで。

倉持議長 この「主役」という部分に関して、いかがでしょうか。

丹間委員 丹間です。「主役」ですと主役、脇役というふうになって、主体ですと主体、客体というふうに対になると考えます。そういった点を踏まえて考えられたらどうでしょうか。

富田委員 富田です。はい、分かりました。「主役」という言葉でいいかと思います。

倉持議長 ありがとうございます。

改めて言葉を吟味するのは大事なことだと思うので、皆様も、一度検討したところでも、もし気になるところがあったら、今みたいに挙げてください。

そのほか、いかがでしょうか。1の(1)の部分ですね。

丹間委員 富田委員が「主役」のほうでとおっしゃったんですけど、行政の自己評価ということを見ると、主体と客体というような関係で、主体という案もあり得るかなと思ったんですけども、いかがでしょうか。

富田委員 主体、客体といったとき、じゃあ、客体って何だろうというのがまた分からなくなっていくので。

丹間委員 なるほど。

富田委員 「主役」くらいでさらりと、よいのかなという気がしました。

丹間委員 分かりました。ありがとうございます。

倉持議長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

笹生委員 笹生です。かなりくだらないことで申し訳ないんですけど。(1)の部分で、(2)(3)と見ていくと、半角ずれてるんです。すみません、くだらないことで。最初、(2)が間違っているのかなと思ったら、後ろを見ていくと……。伝わりました？

倉持議長 ありがとうございます。箇条書のポツの位置はずれてないんだけど、括弧の位置がずれてるんですね、これ。(1)だけ、左に多めに出ているってことですね。よく気づいていただきました。最終的にはびしっと、整ったものに。事務局のほうでお願いします。

事務局 御指摘ありがとうございます。その他、漏れが幾つかありまして、申し訳ございませんでした。引き続き審議をよろしく願いいたします。

倉持議長 ありがとうございます。

そのほか、(1)のところでいかがでしょうか。

事務局 事務局から。同じ御指摘のところで。「市民や利用者」のところを「市民・利用者」にそろえる関係で、一番最後のポツにも「市民や利用者」という言い回しが残っていますので、ここを「市民・利用者に」に変更されたよろしいかと思えます。

倉持議長 ありがとうございます。

じゃあ、これは全体的に、またほかにも出てきたら「市民・利用者」ということで、そろえたいと思います。

では、(2)に行きます。

これも表記的なものですが、「中・長期的視野」というのは「中・長期的な視野」のほうがいいんじゃないかという御指摘をいただいたので、ここも何度か出てくると思うんですけど、(2)の、1ページの最後の行に出てきますね。「長期的」の後に「な」を入れていただいて、「中・長期的な視野」としていただきたいと思います。

ページをめくっていただいて、2ページ目の上から2つ目のポツです。これは前回、これごと前に持っていったらいいんじゃないかという御意見をいただいたところですが、その趣旨はさっき言ったPDCAサイクル、評価の構造を示すというのを前に持っていったほうがいいんじゃないかという御意見だったので、その部分は先ほど申し上げましたように、(1)のほうで修正しました。

この部分は、社会教育委員の会を主語にして、文章をちょっと修正したという形になります。つまり(2)は評価の構造について書いてあるところなので、その部分にポイントを絞って書き直したということです。とはいえ、前半の部分を少し削っただけなので、出だしの部分を「社会教育委員の会が」というふうにしたんですけど、ちょっと足したかな。

修正前は、「事業評価の基本は行政による自己評価であるが、社会教育委員の会が、行政が実施した自己評価と改善のプロセスや評価方法について検証し、中間評価や最終評価に意見を述べ、次期の生涯学習振興・推進計画の立案に活かすことが必要である」。

ちょっと誰が主語がよく分からない文章だったので、修正の御提案は「社会教育委員の会が、行政による事業評価に関する自己評価と改善のプロセスや評価方法について検証し、中間評価や最終評価に意見を述べる機会を設けることが必要である。これによって、事業評価のプロセスと結果が次期の生涯学習振興・推進計画の立案に活かされることが期待される」という言い回しと、分担というか、内容を付け加えてみました。

大枠、言っていることはそんなに変わらないんですけど、「意見を述べる機会を設ける」とかいうふうに具体的に、足したりしたところは、あるかなと思いますし、事業評価の結果だけではなくて、プロセスと結果が次の計画の立案に活かされるんじゃないかという、そういうところが変更点かなと思います。

(2)についてはこの2点なんですけれども、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

ちなみに、(3)については、前回、臨時会でいただいた変更点以外の変更は、特にしませんでした。これも具体的な、単年度評価の検討事項についても、四角でくくってもいいんじゃないかという御意見もあったんですけども、前半のほうが目立ち過ぎてしまうので、あえて箇条書のままにさせていただいております。

事務局 事務局です。度々すみません。こちら、丹間委員の御意見で、 から の丸数字にという御意見もあったので、その修正をされるかどうか、確認をしていただけると助かります。

倉持議長 これは丹間副議長から補足をいただけるとよろしいかなと思いますが。

丹間委員 括弧の数字の下の階層で箇条書が来ると丸数字ということなので、ここは階層からいくと、今のポツの箇条書のままでいいんですけども、具体的な評価方法の改善ということを考えると、丸数字にしておく、それぞれの担当課で、評価の方法を改善していく際にも見やすいかなということで、提案した次第です。

倉持議長 つまり、今はただのほかと同じ箇条書のポツになっているところを、
、
、
、
というふうにしたらいいんじゃないかということですね。
ただ、前のところで出ている丸数字は、やや段階的な形で使っているんですけど、(3)は段階的というよりは5つのポイント的な感じにはなるので、丸数字の使い方は違ってきちゃうかなという感じにはなるんですけど。いかがですかね。
メッセージの相手と同じ対象とは限らないので、1つ目とか2つ目は多分、生涯学習課のシートに対する意見だし、3つ目と4つ目は全ての課に対する意見だったりとかする。5つ目はやっぱり生涯学習課に対する意見ですかね。ちょっと、一定の相手じゃないので、このまま箇条書のほうが無難というか、ですかね。
ここでやり取りはしたけれども、このままでいいかなと私は思うんですが、どうでしょうか。

砂押委員 はい、私もそう思います。箇条書のままでいいんじゃないでしょうか。

倉持議長 はい。砂押委員、ありがとうございます。
では、見た目上の問題ですけども、取りあえずこのままで。大事さは別に変わらないので、このままでいきたいと思います。
どうぞ、佐々木委員。

佐々木委員 見た目上の問題なんですけれど、今の(3)ポツのところ、送ってもらったほうのやつはスペースがかなり空いてたけど、今日、頂いたのはスペースを詰めちゃって、これ、そろえたんですかね。

事務局 そろえました。

佐々木委員 はい。分かりました。ありがとうございます。

倉持議長 丁寧に見てきていただいて、ありがとうございます。最終形式は、さっき言った左寄せとか、右とか、上とか、下とか、ちゃんと整えた形にしてもらいます。ありがとうございます。また気づいたら言ってください。
じゃ、取りあえず、また何かあれば戻っても結構ですが、大きな1番は以上のような形で、大きな2番、中間評価・最終評価の方法についてです。2ページ目。これは前回も大分議論したところではあるんですけども、つまり評価の時期、タイミングについてですね。3年目なのか、4年目なのか、5年目なのか。9年目なのか、10年目なのかということ。
前回お示した案では、2つぐらいあるんじゃないかという形で出してたんですけど、やっぱりメッセージ性が弱いんじゃないかと、こういう併記した書き方よりも、1つに絞っていったほうがはっきり伝わるんじゃないかという御意見をいただいたので、中間、最終それぞれの評価の時期というかタイミングを一本化したものを、今回お示ししています。
まず中間評価なんですけど、「時期(タイミング)」については、原則として

4年目に行くことが望ましい」、「この原則として」と入れたところに、やや含まれているというのはあるんですけど、これは取ったほうが良いということがあれば、また後で御意見ください。

「4年目に中間評価を行うことで、課題や問題点を早期に見出し、必要に応じて事業の継続、拡充、見直し、新規立ち上げなどといった方向性を検討できるようにするためである」。これも、「必要に応じて方向性を検討する」と、中途半端な言い方なので、はっきり言ったほうが良いというお話があったので、事業の継続とか、拡充、見直しとかという言葉は足しました。前回の皆さんの意見を踏まえて、少し整えたということになります。

それから、最終評価の時期、タイミングのほうですけれども、これも2つの案が考えられるとなっていたのを、1つにまとめています。「最終評価の時期（タイミング）については、原則として9年目に行くことが望ましい。長期的な評価をふまえて、次の10年の計画を立案する際に活用することを意図している」という文章にしてみました。

文章だけではイメージが湧きづらいので、副議長からの御提案で表を、この次に足すということで、3ページのほうに、「表1 生涯学習振興・推進計画の評価のタイミングについて」ということで入っています。

今、これ自分で読みながら思ったんですけど、「時期」と言ったり、「時期（タイミング）」と言ったり、「タイミング」と言ったり、表現のぶれがあるので、これは何か、統一？ 何に統一ですかね。タイミング？ タイミングでいろいろ通じますかね。

苦米地委員 「時期」が良いと思います。

倉持議長 じゃあ、「時期」にしますか。同じことですからね。二度繰り返す必要はないですね。

じゃあ、「時期（タイミング）」となっているのは全部外して。1つ目のポツは「中間評価の時期については」、2つ目のポツは「最終評価の時期については」、表1のタイトルについても「評価の時期について」というふうに修正したいと思います。その上で、2の(1)から表1までを1つにしました。

ちなみに、(2)はそんなに修正点はなくて、まとめてやってしまいますけど、2つ目のポツで、さっき言った「中・長期の」というのを「中・長期的な」という表現にさせていただくと、「観点」が重なっていたので日本語を整えて、「基本目標・重点施策に即した評価に加えて、次に掲げる観点を例に、多角的に中・長期的な評価の対象を選定することも検討する」というふうにしています。ここが直したところです。

では、大きな2番について、御意見がありましたらよろしくお願いします。富田委員、お願いします。

富田委員 富田です。最初に「原則として」というのを入れるかどうかという話があったかと思うんですが、ぜひ入れておいたほうが良いと思います。ただの感想なんです。4年目に中間評価を行うということは、2021年度、今年までのことについてですよね。について、評価を行うということになる。

倉持議長 その辺はあえて表現しておりませんが、3年目の振り返りをしながら、そこまでの成果も踏まえて中間評価することも十分可能なんじゃないかという意見が前回出たと思うので、4年目にやるのはやるんですけど、3年目の振り返りをするタイミングと、中間評価をするタイミングが1年のうち同じとは限らないので、いずれにせよ4年目にやるということにとどめております。

富田委員 その上で、3年目というのは2021年、今年度で、現実的にやっぱりコロナ禍で、ほとんど単年度評価で従来の事業ができていないという状況の中での振り返りに、評価になると思いますので、4年目に中間評価といったとき、かなり大変なものがあるんじゃないかなと。という感想を持っていますので、その辺は、どういう評価が可能なのかということが出てくるかもしれないので、「原則的に」と入れておいたほうがいいという意見です。

倉持議長 ありがとうございます。10年のスパンだといろいろなことがあると思いますので、「原則」と入れるのはいいんじゃないかということですね。
そのほか、2の(1)と(2)について、御意見はありますでしょうか。
笹生委員、お願いします。

笹生委員 笹生です。(1)のポツの1つ目、中間評価の時期についてなんですけど、元のほうには「3年間の単年度評価の実績をふまえて」という文言がありましたけど、修正版のほうはなくなっているんですけど、私個人としては、これはあったほうが意図が伝わりやすいかなという印象を持っています。
以上です。

倉持議長 ありがとうございます。この辺は、前日も議論になった、並行してできるんじゃないかというところを、どこまではっきり言うか、言わないかで、やや悩んだところではあります。

笹生委員 なるほど。すみません。そういった経緯があるならば。

倉持議長 いえいえ。でも、実際、3年間の単年度評価の実績を踏まえて4年目にやるしかないなので、書いておいたほうがいいんじゃないかという御意見もそのとおりですね。いかがでしょうか。
もし入れるとしたら、「原則として4年目に行うことが望ましい」の後に、「3年間の単年度評価の実績をふまえて4年目に中間評価を行うことで」といった文章になると思うんですけども。はっきり単年度評価との関係について触れておいたほうがいいんじゃないかという御意見をいただきましたが、いかがでしょうか。

苫米地委員 それでもいいと思います。しかし、(2)の評価の対象についての中で、「単年度事業評価をふまえて」という文が入っています。文が重なるので、なくても伝わるのではないかと思います。

倉持議長 ありがとうございます。確かに、繰り返しで何度か出てきちゃうので、表もあるし、十分伝わるんじゃないかということですね。
そのほか、いかがでしょうか。

笹生委員 苫米地委員がおっしゃるとおりで、よろしいかと思います。

倉持議長 ありがとうございます。じゃあ、あえて「3年間の単年度計画」と入れなくても、(2)のほうに書いてあるから分かるだろうということで、ここは入れないということでいきたいと思います。
ほかに、2番のところでは何かないですか。丹間委員、お願いします。

丹間委員 表について確認なんですけれども、10年目の辺りに計画案策定というのが書いてあるんですが、少し9年目にかかるようなレイアウトになっています。先ほどの笹生委員の半角ずれているというご指摘ではありませんけれど、これは9年目に策定するというような可能性を事務局で想定されているのでしょうか。つまり、2027年度に策定という可能性があるのであれば、こうなると思うんですけど。その可能性がないのであれば、9年目にはみ出さなくてもいいのかなと。

事務局 事務局です。こちら、10年目の1番下、次期計画案策定の行ですが、ここは(案)が2つ続いちゃっているので、「計画案策定」だけでもいいかもしれません。それで、ここが9年目に多少かかっているのですが、1年でできるのかどうかというのが、今のところ不透明なところがございますので、保険という形で9年目に若干かかる、9年目の最終評価が終われば準備はできるかなということで、可能性として若干9年目に食い込ませています。この時期になってみないと具体的なスケジュールが固まってこないというところが実情です。

丹間委員 分かりました。そうすると、策定というのは検討のプロセスも含めた期間をここで書いているということですね。

事務局 そうです。すみません。

丹間委員 決定ではなくて。

事務局 はい。策定のプロセスが始まるのが、この頃かなということで。

丹間委員 ありがとうございます。

倉持議長 「策定」じゃないほうがいいと思いますね。

丹間委員 そうですね。策定というと、どうしても計画を決定した時点という、何月何日策定というようなことになると思うので、それに至る期間も含めて示すのであれば「検討」とか「立案」とか、そういった形がよいのではないでしょうか。

倉持議長 確かに。そうするとよさそうですね。策定するのは2028年度の終わり頃にしないと、2029年度から開始できないのでという意味だと思うので。じゃあ、ここはちょっと、「計画案検討」とかにしていただくと。適切な文言はまた事務局で検討いただいてもいいんですけど、ここでは「検討」でいいですか。

事務局 はい。「検討」でお願いいたします。

倉持議長 はい。では、ここは「検討」にしてもらいましょう。

そのほか、2番はよろしいですか。

では3番ですけども、まず(1)の1行目、「数字ではあらわすことのできない」というところ、ほかのところでは「あらわす」は漢字でどこかに出ていたような気がするので、「表す」で統一。そうですね。1の(1)では「表す」としているのので、3の(1)も漢字に修正をお願いします。

ただ、4ページ目の(2)「数字ではかることのできる」というのを、「はか

る」と平仮名で私、書いたんですけど、ここも漢字がいいんじゃないかというやり取りを、丹間副議長としたんですけど、これはちょっと私、悩んでしまって。もちろん「測る」なんですけど、ほかの漢字もたくさんあって。平仮名のほうが多様な意味を含ませられるような気がして。ほかに「はかる」も出てこないし。どうでしょうかね。漢字にしたほうがいいのか、平仮名のままでいいのか、「数字で表す」で逃げたほうがいいのか。ちょっと御意見をいただければと思うんですけども。ただ、表現が中身を表している場合もあるので、細かいところではあるんですけど、(2)の「数字ではかる」というところ、どういう表現がいいかということですね。

あとは細かい表現で、(1)が何々「するものである」と書いてあったので、(2)のほうも、何々の「ものである」というふうに語尾を直したぐらいで。そこ以外は修正はしていません。

では、大きな3番の(1)(2)について、今の部分でもいいですし、改めてでも結構ですので、御意見がありましたらよろしくお願いします。

笹生委員、お願いします。

笹生委員 笹生です。(1)のポツ1つ目の2行目ですが、「記述式アンケートの回答や、振り返りのコメントを求めること」みたいなのが入るとよろしいのではないのでしょうか。

倉持議長 「求めることなどが考えられる」。はい、ありがとうございます。「こと」を加えるんですね。

そのほかいかがでしょうか。

砂押委員 先ほどの(2)の「はかる」については、議長のおっしゃるとおり、私も平仮名でいいかなと感じました。もちろん、例えば何かやったときの人数だとか件数、そういうしっかり測れるものもあるけれども、アンケートの結果みたいに微妙な、具合をはかるというような場合もあると思うので、「測る」ではなくて、平仮名でもいいかなという漢字はいたしました。

倉持議長 砂押委員、ありがとうございます。

富田委員、お願いします。

富田委員 富田です。私は「表す」がいいかなと思うんですが。評価というのは測ることではなくて、価値判断かなと思うので、数字で測る、すなわち評価になるということではないというように感じるんですが。なので、評価、価値判断を数字で表すだけであってという意味で、「表す」かなという気がします。

倉持議長 ありがとうございます。「表す」がいいんじゃないかということですね。

そのほか、いかがですか。

そうですね。数字で測ることのできる指標を使って表す評価ということですかね。つまり「表す」と。

砂押委員 「測る」でなければ、「表す」でもいいかなという気がしました。

倉持議長 そうですね。それで十分伝わりますね。

砂押委員 「測」はちょっと違うかなと。はい。

倉持議長 はい、分かりました。

そのほか、大きな3番、定性・定量の両面からの評価についての部分で、お気づきのこと等ありますでしょうか。

では、最後の「おわりに」なんですけれども、少し言葉を足しました。

佐々木委員 すみません。さっきの定性・定量の両面からの評価についての中で、「市民や利用者」という言葉が2か所ぐらい出てくると、最後のほうになると、「市民、利用者、職員」というのが出てくるじゃないですか。さっきは「市民・利用者」でそろえたけど、これは。逆に大したことないからいいのか、「市民・利用者、職員」になるのかとか、しょうがないことが気になっちゃって。これは見栄えの問題です。大した内容はないんですけど。

倉持議長 いえいえ。確かにおっしゃるとおりですね。「市民・利用者、職員」か、それともここはあえて、「市民、利用者、職員」か。

佐々木委員 何か所も「市民や利用者」があるから。

倉持議長 そうですね。ここは「市民や利用者」が確かにたくさん出てきます。これはじゃあ、先ほどのルールにのっとって、「市民や利用者」と続いているところは「市民・利用者」と直しますけれども、最後のところはね。市民イコール利用者とは限りませんしね。利用者イコール市民とは限りませんので、いろいろな人が意見交換をし合おう、し合う機会を持とうということなんですけど。

はい、丹間委員。

丹間委員 現在、「職員など」となっていますけど、具体的に何か想定されているんでしょうか。別にないのであれば、「など」とすると曖昧になってしまうので、削除するという方法もあります。また、ここは対話ということを重視していますので、「市民、利用者」のところは読点ではなく中点でつなぐ。対話するのは職員と市民・利用者という意味ですから、読点ではなくて、「市民・利用者と職員による意見交換」にするとか。誰と誰が意見交換して対話するのかということをも明確にするというの、一つの修正案としてあると考えます。

倉持議長 「など」を……。「など」は、委員とか、教育関係者とか、ないこともないような気がするんですよね。でも、細かいところだな。あんまり曖昧な書き方をしないほうが、メッセージ性はあるかな。

富田委員、お願いします。

富田委員 例えば審議会、協議会が、これで含まれますかね、「市民、利用者、職員」で。審議会、協議会、委員会がどこにあるか分からないですけれども、そういう、一部では特にはないですけれども、含まれれば、いいかとは思いますが。

倉持議長 「など」のところに委員とかが含まれていると考えると、やっぱり「など」大事ですね。ここにまた「委員」とか入れちゃうと、何の委員かとかとたくさん言葉を足さなきゃいけないので、ほかにも関係者はいるけど、メインとなるところは、今回のここで言いたいのは「市民、利用者、職員」だと思うので。

じゃあ、「など」は生かしておいて、「市民、利用者、職員など」、このままですね。ただ、その1つ上の、「市民や利用者」となっているところは「市民・利用者」というふうに直すという形にしたいと思います。

ありがとうございます。いろいろ気づくことがありますね。

丹間委員 そうすると、「双方向」というのが少し分からなくなるので、これは要望書でもいただいておりますけれども、削除してもいいのかなと。共に振り返ることが重要なわけで、ある立場とそれと異なる立場の間の双方向というよりは、様々な立場で理解をし合うという点で、「共に」というようなことでもいいかもしれない。

倉持議長 そうすると、「市民、利用者、職員などによる意見交換は、対話による定性的評価として位置付けられる」、で、「双方向で」を取ると、日本語として「など」っておかしいから……。

丹間委員 2者である場合も3者である場合もあるということでしたら、「共に」という表現ですね。同じテーブルの上で、様々な立場で一緒に振り返りをしていく。

倉持議長 そうしたら、例えば「共に事業の振り返りを行う様々な方法を検討する」とかですかね。様々な方法を検討する……。うーん。この文章自体が要らないかな。「共に事業の振り返りを行う機会を持つ」とか、「場を持つなど」とすれば、「など」は要らなくて、「様々な方法での実施が考えられる」と。
苫米地委員、お願いします。

苫米地委員 「対話による定性的評価として位置づけ」で切って、「様々な方法で実施を検討する」とかではどうでしょうか。意見交換をやったほうがいいという提案ですよ。

倉持議長 「市民、利用者、職員などによる意見交換は、対話による定性的評価として位置付けられ、様々な方法での実施を検討する」。日本語、大丈夫ですか。

苫米地委員 「位置付けられ」じゃなくて、「位置付けて」ですね。
「位置付けて、様々な方法で実施する」とか。「実施を検討する」とか。

倉持議長 「市民、利用者、職員などによる意見交換は、対話による定性的評価として位置付けて、様々な方法での実施を検討する」。うん、まあ、変じゃないな。変でしたか。

佐々木委員 佐々木です。何となくニュアンスとしては分かるけど、ただ、先ほども丹間委員がおっしゃったように、双方向って、行政側から利用者には何か意見を言うことはないですよ。伺うことはあっても、何か不具合はありませんかとか、もっとこうしてほしいという要望はありませんかというのはあるけど、行政側の職員のほうから、もっとあせい、こうせいって言うのは、双方向ってことはないと思うんですね。だから「双方向」を消したほうがいいというのは確かだと思うんです。

そうしたとき、様々な方法で、何をどう実施するかというのを上手に、うまく言葉を入れるといいと思います。

倉持議長 対話による、意見交換の様々な方法ということですよ。

佐々木委員 そうですね。

倉持議長 意見交換の様々な方法を考えるということですよ。

苫米地委員 はい。

倉持議長 「市民、利用者、職員などによる意見交換は、対話による定性的評価として位置付けて、様々な方法での実施を検討する」。収まったのかな。

砂押委員 うん。そこにやっぱり「ともに事業を振り返るなど」と入れてあげたほうが、何か。

倉持議長 それは入っても大丈夫？

砂押委員 「定性評価として位置付け、ともに事業を振り返るなど、様々な方法での実施が考えられる」という、言い方。

倉持議長 なるほど。いけそうだ。「市民、利用者、職員などによる意見交換は、対話による定性的評価として位置付けて、ともに事業を振り返るなど、様々な方法での実施を検討する」。一人で満足しちゃった。

根岸委員 やっぱりここは、事業の振り返りって、割と重要なポイントですよ。

倉持議長 はい。ちょっと攻めたところですからね、ここは。対話、利用者と本当にできるのかというのは、確かにいろいろと検討しなきゃいけないことはたくさんあると思うんですけど、でもチャレンジする、したほうがいいんじゃないですかということですからね。
ありがとうございます。

笹生委員 今ので本当に結構なんですけど、上の2つのポツと整合を取るなら、最後は「検討する必要がある」と。「求める」か、「必要がある」かのどちらかを。

倉持議長 ありがとうございます。「市民、利用者、職員などによる意見交換は、対話による定性的評価として位置付けて、ともに事業を振り返るなど、様々な方法での実施を検討する必要がある」。完成に近づいてきたかな。事務局、メモっていただきましたか。ありがとうございます。

苫米地委員 別の場所でもよろしいでしょうか。

倉持議長 お願いします。

苫米地委員 (1)の1つ目のポツの2文目、「アンケートなどの目的は回答そのものの評価ではなく、事業を実施する行政の取り組みへの評価であることを事前に明示する必要がある」、何回か読んでみても分かりにくい文章だと感じています。後ろの部分だけでもいいのかなと思うような文章です。「アンケートの目的は、事業を実施する行政の取り組みへの評価であることを事前に明示する必要がある」。

倉持議長 「回答そのものの評価ではなく」を取ってね。

苫米地委員 そうです。その文言が入ると、何回見直しても分かりにくくなると思い

ます。

倉持議長 前回もちょっと出てたような気がするのです。そうしたら、「アンケートなどの目的は、事業を実施する行政の取り組みへの評価であることを事前に明示する必要がある」。これは、要は最初に出てきた、学習者の学習を評価しないということに触れてほしいという意見があったのが残ってて、こういう形になっているんですけども。かえって分かりづらいんじゃないかというのが、今の苦米地委員の御意見なので、文章としてすっきり分かりやすくするには、「回答そのものの評価ではなく」というのを、取ってしまったほうが良いということですね。よろしいですか。

ありがとうございます。

そのほか、いかがですか。石居委員、お願いします。

石居委員 すみません、細かいところで。今の同じところなんですけど、「事業の参加者へ」というところが、本当に細かいんですけど、事業の参加者への後に読点を打って、「回答や」の後はむしろ要らないというか。今、もう一度さらっと読み直すと、「事業の参加者へ記述式アンケートの回答を」と、何か参加者に回答するみたいに、この読点がないとさらっと見えてしまう。最終的には「回答を求める」ってつながっていくんだと思うので、文章としては間違っていないんですけど、事業の参加者へ並列2つを求めるという文章だと思うので、「事業の参加者へ」の後にむしろ読点があったほうが分かりやすいかなというふうに思います。

倉持議長 ありがとうございます。読点の位置を変えるってことですね。「事業の参加者へ、記述式アンケートの回答や振り返りのコメントを求めるなどが考えられる」ということで、並列関係を分かりやすくするということですね。ありがとうございます。

そのほかにも、ないでしょうか。

じゃあ、最後のところにも少し触れておきたいので、4ページ目の「おわりに」のところなんですけれども。言葉を少し足しました。

「生涯学習・社会教育の役割や効果を表すことのできる適切な事業評価方法」、前は「評価方法については、今後も継続的に検証・研究していく必要がある」という、かなりシンプルな表現だったんですけど、もう少し丁寧に、「事業評価方法の検討は、それ自体が国立市生涯学習振興・推進計画の重点施策となっている。そのため、今後も継続的に研究し、評価を受けて改善を図っていくことが重要である」と、より計画の位置づけということをはっきりさせて、何で継続的に研究していかなくちゃいけないのという理由をちゃんと付したということが、追加の部分になります。

ということで、「おわりに」ということで。

「おわりに」を含めて、前に遡っていただいても結構なんですけど、今日、ほぼほぼ表現、言葉も含めて完成で、次回は軽微な修正ぐらいしかできないと思いますので、今の段階でお気づきになったことがあったら、ぜひ御指摘いただきたいと思います。いかがでしょうか。

石居委員、お願いします。

石居委員 石居です。2つありまして、1つは「おわりに」のところなんですけど、第2文目の「そのため」「重要である」という文章の主語は、何になるというふうに理解すればいいんでしょうか。

倉持議長 「適切な事業評価方法の検討」。

石居委員 「今後も継続的に研究し、評価を受けて改善を図っていく」のは、国立市がですか。誰が継続的に研究し、改善を図っていくのかっていうのが。

倉持議長 計画そのものは原則、国立市の生涯学習振興・推進計画なので、自ずとそうなるんじゃないかなというふうには思うんですけど。重点施策に一つ一つ誰がって書いてあるわけではないのですが、文脈からいえば、そうということ。だからそれを受けて今回、社会教育委員の会は、意見を求められて出そうとしていくということになるので、関係もありますので、はい。
書いたほうが良いということですか。

石居委員 うーん……。そう思ったんですが、でも、国立市がここに書くのは、それはそれでちょっと陳腐な感じがするということなんです。明確化したほうが良いかなと、ちょっと思いました。ただ、したほうが良いというふうには、今は言いません。ということで。

あともう一つが、すみません、前に戻って恐縮なんですけど、2ページ、今日の要望書の2番に関わるところでもあると思うんですけど。上から2つ目のポツ、評価に対する社会教育委員の会の関与の仕方についてなんですけど。やっぱり確認しておいたほうが良いかなと思ったのは、この最初の文章が、「社会教育委員の会が、行政による事業評価に関する自己評価と改善のプロセスや評価方法について検証し、中間評価や最終評価に意見を述べる」という、検証するというのと、意見を述べるという2つの動詞が出てくるんですけど。

これは、検証する対象になるのは、このまま読むとプロセスや方法に関わるところで、意見を述べるのは何なのか。直接読めば中間評価や最終評価に意見を述べるというふうになっているんですけど、これは前の文章から引き続き、主にはプロセスや評価に関わる部分を検証して、意見を述べるというふうに含意するのか、最後の部分は、中間評価や最終評価の結果や中身といったことまで含めて意見を述べるという含意なのか。そこが結構、重要な気がするんですね。

もうちょっと言ってしまうと、すみません、個人の意見を先に言ってしまうんですが、今回の意見を求められているのは事業評価方法の検討についてなので、やっぱりあくまでも検証したり、意見を述べたりするという、その範囲は極力方法やプロセスという部分に限定されるのかなというふうには、僕自身はちょっと思ってたところがあって。この後半の部分が、結果や中身というところに、より立ち入って意見を述べるんだということを踏まえるのか、そうじゃないのかというのは、もう一回確認をしたほうが良いのかなと思いました。

なので、ちょっと確認したいんですけど。

倉持議長 もしよければ、修正案も一緒に出していただけますか。今の前半の意味でいうとすると、どういうふうに直したらいいと思われませんか。

石居委員 そこはもう、「検証し」、その後の「中間評価や最終評価に」を取ってしまうという修正案です。

倉持議長 どうでしょう。

まあ、取ったら取ったで、単年度だろうが、中間評価だろうが、最終評価だろうが、社会教育委員の会が一定関与するとも読めるし、逆にその裁量は行政次第とも読めるので、ただ、これまでの経過でいうと、単年度の進捗、自己点

検評価もかな、については報告をいただいているという感じなので……。
検証とか意見は述べてないような気はしますけど。

苦米地委員 当てはまるかどうか分かりませんが、このままの文章を残しておきながら、「中間評価や最終評価の時期に」という文を入れると、内容ではなくて、その時期にプロセスや方法を評価するという内容になると思います。

倉持議長 「中間評価や最終評価に」じゃなくて、「に」だと、そのもの自体な気がしちゃうんだけど、「時期」と入れることによって、そのタイミングでというような意味になるっていうことですね。

ここを取ったほうがいいんじゃないかという意見と、「時期に」と入れたほうがいいんじゃないかという意見をいただいたんですけども。

苦米地委員 自分の意見に賛成です。

倉持議長 いいような気がしてきました？

石居委員、どうですか。さっきおっしゃっていた意味をそんなに妨げないようにも思うんですけども。

石居委員 表現はどちらでも大丈夫だと思います。

倉持議長 「に」となってるのは確かに非常に曖昧で、分かりづらいので、「中間評価や最終評価の時期に」と入れることで、対象はプロセスや方法だということのまま……。「社会教育委員の会が、行政による事業評価に関する自己評価と改善のプロセスや評価方法について検証し、中間評価や最終評価の時期に意見を述べる機会を設けることが必要である」……。

いかがでしょうか。

また、文字面で見るとちょっとまた変わってくるというのが、今こうやって手で加筆修正している感じと、実際に打たれた文章で見たときと違うというのは、もちろんあると思うので、だからこそ来月の回で、最終確認するわけですけど。

ただ、来月は、最終確認しつつ、意見書をお出しするというタイミングでもあるので、今日ここで、できる限り確定したいので、意見があれば今日のうちに言ってほしいということです。

根岸委員からどうぞ。

根岸委員 今の話なんですけれど、自己評価というのは行政が行います、中間評価、最終評価も行政が行いますとなるじゃないですか。で、一番最後のところ、1ページ目の(1)事業評価のあり方についての1番目のポツの最後のほう、「市民が自由に主体的に学習することができるための条件整備を行政が行っているかどうかにある」、行政がちゃんとやっているかどうかというのを評価するんですよと書いているじゃないですか。それは、行政が評価するわけじゃないですよ。行政が評価するんですか。

倉持議長 そうです。自己評価だから。

根岸委員 で、その自己評価に対して、社会教育委員の会が意見を。

倉持議長 そのプロセスや方法が、ちゃんと自己評価として適切になっているかどうか

かに意見を言うということですね。

根岸委員 はい。

富田委員 2つの直しの違いって何なのかなと思っていたときに、「中間評価や最終評価に」を取っちゃうのは、いつでも、社会教育委員の会が、例えば単年度評価で、「え、こんな評価なの」みたいなのを検証することができる。で、「中間評価や最終評価の時期に」というと、その時期しかやらないという違いがあると思うんですね。

中間評価や最終評価の時期にやるというのは、具体的にどういうふうにするのかなというのが、方法について、中間評価はこういうふうにしますよと行政の側が言ってくれるのか、その時期にどういうふうに進むのかなってというのが、いま一つ見えないなという気がしまして。

いつでも社会教育委員の会が検証してるぞという意味で、「時期」は入れないほうがやりやすいのかなという気はしましたが、いかがでしょうか。

倉持議長 ありがとうございます。確かに「時期に」と入れないほうが、いつでもというふうにも読めますし、「時期に」と入れたからといって、いつでもを妨げるわけではないとも言えます。まあ、読み方だともちろん思うんですけど、どちらに強調点を置くかだと思うんですね。

例えば今期の私たちの活動から見ると、単年度評価は報告として受けてるんですね。それに対して私たちは、意見は言いましたけど、求められてはいない状態なんです。つまり、行政としては自己評価をして、その結果を報告してくれているという状況です。ただ、あえてここで意見を述べるということによって、一定の時期にきちんと、その方法やプロセスについて意見を言う機会を持ってくださいと。つまり報告ではなくて、議事にしていただく。ということとを、私はややイメージしたんですね。

それが、毎年あったほうがいいのか、中間、最終だけのほうがいいのか、毎年報告じゃなくて審議事項にしたほうがいいのかどうかというのは、なかなか判断はつきかねますけれども。特に中間や最終のときには、意見を出せる状況にあったほうがいいんじゃないかというふうに思ったので、こういう表現になっているというところはございます。

まあ、いつでも言えるのも確かにいいような気もするし、どこに重点を置くかによって、表現の仕方が変わってくるのかなというふうに思いますが。

どうぞ、丹間委員。

丹間委員 この箇所こそ、先ほどの「など」というのを入れておいて、「中間評価や最終評価などの時期に」とする。今、コロナ禍というような状況がありますけれども、今後、もしかするとこのような災禍が何かまた生じるかもしれない。そうしたときには、この中間評価と最終評価をいつするのかという年数にとらわれずに、柔軟にその在り方を変えてみてはどうかということについても検討すべきだと。だとすれば、この箇所こそ「など」を入れたらどうかということとで、いかがでしょう。

倉持議長 そうですね。ここで「など」が、やっと思ある「など」が。

丹間委員 もう1点よろしいでしょうか。先ほど根岸委員がおっしゃったところで、行政が行っているかどうかを行政が自己評価するということについて、確かに分かりにくい面もあると思いましたが。正確に考えると、行政が、行政としての

立場を踏まえて、行政としての役割を果たしているかどうかという、自らの立場と役割を、しっかりと立ち止まって確認するということが重要だと考えます。そうすると、ここは「が」というふうにせず、行政として行われているかどうかというような形にするというのも一つの修正案としてあると考えました。

倉持議長 1の(1)の一番最初のポツで、最後の語尾のところ、「行政が行っているかどうかにある」というところを、「行政として行えているかどうかにある」。

砂押委員 私もちょうと、先ほどの話を聞いていて、やっぱりここは変だなと思ったので。私は、「行政が実現できているかどうかにある」ということにしたらどうかと思っています。そうすると、何か自分でやっているかどうかという。

倉持議長 ちょっと文章として読んでみますね。「評価の対象は、市民が自由で主体的に学習することができるための条件整備を、行政として行えているかどうかである」、あるいは「評価の対象は、市民が自由で主体的に学習することができるための条件整備を、行政が実現してきているかどうかにある」。

どうですか、根岸委員。

根岸委員 どっちですかね。

倉持議長 どっちでも言ってることは同じですよ。

丹間委員 実現というのがいいなと思いました。

倉持議長 うん、はっきりしましたね。

では、この文末のところ、「行政が実現できているかどうかにある」と修正しましょう。ありがとうございます。

その他、いかがでしょうか。

それでは、次回の第24回の会議の際に、今いただいた意見を踏まえて修正した案を確定案として、もちろん次回確認しますけれども、意見の提出という手続も取りたいと思っていますので、もしかしたら軽微な部分が見つかった、もしくは直さなきゃいけないと思うところが見つければ、その場で修正ということは可能かもしれませんが、基本的には今日までの議論を踏まえて提出ということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

倉持議長 はい。どうもありがとうございました。

その他、本日の議題は何かありますでしょうか。

事務局から何かございますか。

事務局 次回の日程は。

倉持議長 はい。じゃあ、議事のほうはよろしいでしょうか。

では、事務局から次回について、よろしく願います。

事務局 事務局でございます。本日も御議論いただきまして、ありがとうございました。

次回は今期最終の第24回の定例会となります。日程が4月27日火曜日の、

時間は今のところ7時となっています。場所は、前回お配りしている資料ですと、お隣の第3・第4会議室になっていましたが、次回もこちらの第1・第2会議室で開催させていただきます。

時間は7時というところ、ここ数回は緊急事態宣言から6時半開催とさせていただきますので、こちら、委員さんの都合がもしよろしければ、6時半開始もありかなと思いますが。ここは、委員の皆様でお話しいただければと思います。次回の日程については以上です。

倉持議長 ということですが。緊急事態宣言は一度は終わりましたけれども、また1か月後どうなっているか分かりませんが。

4月27日の、19時から？

苫米地委員 早くてもいいです。

倉持議長 何か18時半でも集まれそうな感じであれば。

苫米地委員 早く終わるので賛成です。

倉持議長 早く始めて早く終わるのも構わないなと。それだけ落ち着いてできるということもあるかもしれません。

事務局は30分早くても大丈夫ですか。

事務局 はい。大丈夫でございます。

倉持議長 18時30分でもしお集まりになれるようでしたら、このペースでやれたらと思うんですけど。いかがでしょうか。

(賛成ですの声あり)

倉持議長 ありがとうございます。では、次回も18時30分開始ということで。4月27日、第1・第2会議室ということでお願いします。

そのほか、委員の皆さんからございますでしょうか。

では、今回は今期最終回となりますので、よろしくをお願いします。

以上をもちまして、第23回社会教育委員の会の定例会を終わりたいと思います。ありがとうございました。

了